

修辞技法判定テスト

百人一首の歌に含まれる修辞技法について答えなさい。

名前：_____ 日付：_____年____月____日

問1 「花の色は移りにけりないたづらに
わが身世にふるながめせしまに」 (9番) に含まれる掛詞を2つ指摘し、それぞれの二重の意味を答えよ。

問2 「ちはやぶる神代も聞かず竜田川」 (17番) の「ちはやぶる」は何という修辞技法か。何にかかるか。

問3 「あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む」 (3番) に含まれる修辞技法を2つ指摘せよ。

問4 「みかの原わきて流るるいづみ川いつ見きとてか恋しかるらむ」 (27番) に含まれる縁語を指摘せよ。

問5 「名にし負はば逢坂山のさねかづら人に知られでくるよしもがな」 (25番) に含まれる掛詞を2つ指摘せよ。

問6 「ひさかたの光のどけき春の日に」 (33番) の「ひさかたの」は何にかかる枕詞か。

問7 「みかきもり衛士のたく火の夜は燃え昼は消えつつものをこそ思へ」（49番）の修辞技法を指摘し、効果を説明せよ。

問8 「由良の門を渡る舟人かぢを絶えゆくへも知らぬ恋の道かな」（46番）の修辞技法を指摘せよ。

問9 「田子の浦にうち出でてみれば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ」（4番）の「白妙の」は何にかかる枕詞か。

問10 「瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ」（77番）の上句は何という修辞技法か。その効果を説明せよ。

修辞技法判定テスト ― 解答

問1 「ふる」＝降る／経る、「ながめ」＝長雨／眺め

問2 枕詞。「神」にかかる。

問3 枕詞（「あしびきの」→「山」）、序詞（上句全体→「ながながし」を導く）

問4 「わきて」「流るる」「いつみ」が水の縁語

問5 「さね」＝さ寝（共寝）／実（蔓の実）、「くる」＝来る／繰る（蔓を手繰る）

問6 「光」にかかる

問7 序詞（「衛士のたく火の」→「夜は燃え昼は消え」を導く）。篝火が夜燃えて昼消える様子を、恋に思い悩む自分に重ねている。

問8 序詞（上句→「ゆくへも知らぬ」を導く）、縁語（「由良の門」「舟人」「かぢ」「渡る」が海の縁語）

問9 「富士の高嶺」（白い衣→白い雪をかぶった富士山）※枕詞的修飾

問10 序詞。岩で二手に分かれる川の水が下流で再び合流する、という自然現象を、「別れても必ずまた逢おう」という恋の決意の比喩として導いている。